

こどもたちへの武庫川アピール ……次世代を担うこどもたちと武庫川……

田村博美・中 義昭 (武庫川がっこう)

はじめに

「武庫川がっこう」の目的は「武庫川を守る、育てる、活かす、学ぶ」ことです。しかし武庫川だけを捉えるのではなく関わりのある地域や街、自然環境なども対象にしながらいびから活動しています。武庫川の流域を構成する篠山や三田、宝塚北部(西谷)なども活動区域です。以下に「人材を育てる」活動と「武庫川の絵本制作」について報告します。

1. 人材を育てる活動

「こども川博士養成講座(年4回)」は、源流ハイク、野鳥観察、植物観察、湛水エリアを活用したカヌー体験(年1回)など親水活動により、こども世代から武庫川に親しむ人材を育成しています。また武庫川に近接した「高司小学校の3年生」を対象に、年間を通じて、生き物観察、野鳥観察、ストーンペイント、カラサイコの種まきなどを行い、楽しみながら地域の武庫川の魅力や大切さを学んでもらいます(年4回)。

①こども川博士年間スケジュール(H28)

日時	内容	場所
6/12	武庫川源流ハイク	龍蔵寺 源流
9/18	カヌー体験学習	むこにゃん広場周辺
12/4	野鳥観察	仁川合流点
2/19	西谷の冬越え植物ロゼット観察	宝塚北部(西谷)










②高司小学校環境学習支援活動(H28)

高司小学校環境学習支援では川とまちを勉強することを主眼にしています。H28年度は、とくに武庫川の貴重植物であるカラサイコの種まきと減少傾向にあるカラナデシコの植え付けなどを体験しました。過年度は高水敷で洪水について土山を作り山の上から水を流す力の違いで土の崩れ方を体験したり、途中に石ころを置いて水の流れがどのように変わるかなど体験しました。また百間樋水路余水吐を利用してペットボトルを人に見立て水に流される状況や落差堰で水に巻き込まれる状態などを観察しました。土砂災害や水難事故を疑似体験し減災について学んでもらおうと思いましたが、低学年には難しいと判断し見直しました。川やまちの環境学習では適宜活動内容の見直しが必要であることを実感しました。

高司小学校環境学習支援活動の様子



2. 武庫川の絵本制作活動

武庫川づくりやまちづくりを支える人材を育てるには子供のころから身近な自然や里山、まちを実体験してもらう必要があります。しかし、一方分かりやすく興味をもって武庫川やまわりの街のことを学ぶ本ができないかと考え「武庫川の絵本」づくりを試みました。

2011年に「武庫川・まちなみ探訪……武庫川・かわまちづくり」という本を編著し、とっつきやすい絵本のようなものが必要でないか。2014年に武庫川とまわりのまちを対象としたスケッチを公募し、203点の作品の中から沿川4市で開催した展示会で市民のみなさん約800名の投票により65位までを入选作品に選定しました。この作品を使って武庫川を分かりやすく紹介したい。

このような経緯から武庫川の絵本づくりに至りました。絵本の主人公は武庫川下流の「むこにゃん広場」で生まれた子猫「むこにゃん」です。むこにゃんがお母さんとお父さんを捜しに武庫川の上流から河口まで冒険するという話です。途中、武庫川の成り立ち、川に伝わる物語、自然や歴史などたくさんのことを勉強しながらむこにゃんは旅をします。ぜひ親子、兄弟などみんなで読みながら武庫川とまわりのまちや環境のことを知って欲しいと考えています。

むこにゃんの武庫川冒険

この絵本は兵庫県丹波南部から阪神間をながれ大阪湾にそそぐ武庫川という川といびきの子猫のものがたりです。武庫川の下流、宝塚市と西宮市のさかいあたりに「はんしん自立の家」という障害者の生活施設があります。施設の横にはみんなでよく遊びに行く「むこにゃん広場」という名前の広場があります。「むこがわがっこう」の友達と、花畑などをつくっています。ある日、車いすで広場においてくと、広場のかたすみに小さな子猫がいました。

かわいらしい子猫で体に「コ」の字の模様が穴ついています。それでみんなで話しあい、武庫川のねこ「むこにゃん」と名づけました。この物語はむこにゃんがお母さんとお父さんをさがして母なる川、武庫川を冒険するお話です。さあむこにゃんといっしょに武庫川に出かけましょう。



武庫川の絵本の一部